福島県立博物館　中期目標（第3期　2019～2023年度）

1．重点目標

2021年度の計画と実績・自己評価

使命	活動方針	重点目標	（上）2021年度の計画　（下）実績・**自己評価**
Ⅰふくしま発見博物館	１地域の文化遺産の収集と継承	①検索が楽しめるデータベースの構築と公開方法の改善	テーマ型データベースのコンテンツを整備する。
			各分野で設定したテーマに関する資料情報・写真登録及び資料解説原稿を準備し、次年度の試行に向けてコンテンツを整備した。設定テーマは、「会津藩校日新館の教育」・「会津大塚山古墳」・「福島県民の関わった南極観測」・「会津の絵画」・「幻の土人形～根子町人形」・「東日本大震災の避難所資料」の６件である。 **計画通り実施**
		②図書利用環境の整備	図書室２層の利用を開始する。１層図書の再配置を完了する。一般来館者の図書利用要項を策定するために、図書室の現状と問題点を詳細に把握する。
			図書室２層の利用を開始し、１層図書の再配置を完了した。図書室の現状と問題点の把握については、図書室設置位置が管理棟最奥部であることによる一般来館者の入室管理性や司書の業務量や人員体制の面から一般への図書閲覧サービスを行う上での課題について共有した。 **計画通り実施**
		③資料の安全な保存	環境モニタリングや環境調査結果から現状の環境リスクを検討・共有する機会を定期的に設け、課題解決の方策を検討し、実践する。
			温湿度常時モニタリングや定期環境調査結果を各分野の担当学芸員と共有し、収蔵庫や展示室等の環境レベルについての現状と課題を検討した。対策の一環として計画的な館内清掃と実施効果を図る追加のモニタリング調査を実施した。館内環境の改善が見られ、館内環境保全のPCDAサイクル策定への一歩となった。 **計画通り実施**
	２最新の研究による新たな資料価値の発見	④多様な連携による新たな研究活動	共同研究組織を立ち上げたり、特定の研究課題組織に参画するなどして、学芸員の専門性を生かした役割を果たし、研究成果を公表する。
			国立歴史民俗博物館（民俗分野）、群馬県立自然史博物館、北海道大学総合博物館、カールトン大学（自然分野）、熊本大学（災害分野）、明治大学（考古分野）など幅広く各分野で共同研究が行われた。また学鳳高校、会津大学など地元機関との共同研究も立ち上げられた。 **計画通り実施**
			国内在住の外国語ユーザーやインバウンドの展示理解を促進するため多言語化を充実させる。

	３来るたびに発見がある展示・講座	⑤何度でも足を運びたくなる展示づくり	常設展示室（大テーマ・中テーマ）や無料空間について、英語・中国語（簡体字・繁体字）の３か国語によるデジタルサイネージ等での多言語表記を整備し、展示の充実を図った。 **計画通り実施**
		⑥博物館の魅力が詰まった新しいスタイルの講座の開催	常設展・ポイント展などと連動した講座の開催を各分野に促し、展示を補完するような講座を企画する。
			常設展の魅力を伝えるため企画した「ポイント展ミニ解説会」は、コロナ禍の影響で中止となる回もあったが年度内に18回開催。多岐にわたる常設展の魅力を多分野の学芸員の解説で気軽に楽しんでいただく場となった。 各界で活躍する文化人の知見に直接触れる機会となる「特別講座」は2年目となり、企画展等と関連するテーマ・講師で企画。好評を得て認知度があがり、連続参加者がみられるようになった。3回目はコロナ禍の影響でオンライン無観客開催となったが国内外から参加があり、マスコミへの露出が重なったこととあわせて、当館を広く海外までPRする事業となった。 **計画通り実施**
		⑦新しい展示ストーリーの検討	会津地域の文化観光拠点施設としての機能を強化するため、「三の丸からプロジェクト」に則した展示室の整備について検討する。
			常設展室の「展示ロビー」を３周遊へのゲートウェイ機能を果たす展示強化空間として再整備する方針を決定した。周囲にサテライト的に展開する［歴史・美術］展示室・［民俗］展示室・鶴ヶ城跡が望める「西レストコーナー」・「ビデオブース」の役割を明確にし、有機的に関連させることで一体的かつ文化観光のランドマークとなる空間「（仮称）三の丸アベニュー」の構築を目指す方針とした。 **計画通り実施**
		⑧展示室以外の空間の有効活用	中・長期的な視点で無料空間のあり方、活用方法を検討する。検討内容も踏まえて、体験学習室の新たな利活用を試行する。
			多様な利用者が各自の興味に基づき主体的に活動する場としての体験学習室、食を通して会津の文化を体験できる場としてのレストランの整備案を検討・立案し、三の丸からプロジェクトの令和4年度事業案に反映した。令和4年度の事業案を踏まえて、体験学習室で自由に読み聞かせができる絵本（視覚障がい者向け図書を含む）配備の準備を進めた。 また、三の丸からプロジェクトの一環で乳幼児を連れた来館者が楽しみながら利用できるベビーケアルームや視覚に障がいのある方も資料について学べる視覚支援観覧システムを導入した「さわれる展示ボックス」を体験学習室に設置。会津のものづくりが学べる空間としてレストランの整備も進めた。 **計画通り実施**

Ⅱ出会いふれあい博物館	４楽しめて出会いのある場の創出	⑨多様な利用者層に対応したプログラムの実施	障がい者および乳幼児や保護者に合わせたプログラムの試行結果を受け、定着のための改善、制度化を進める。また、小学生に合わせた学習機会の促進を図る。
			県内の支援学校と連携し、障がいをもつ児童生徒に向けたプログラムの多様化を進め、定着に繋げた。遠隔操作ロボット等のICTの活用は博物館利用のハードルを下げ、障がい者や高齢者など来館が困難な層の博物館利用が可能となった。 幼児に対しては企画展等の対話型鑑賞や季節感を取り入れたワークショップを実施。幼児を対象としたプログラムの精度が上がり、通年展開の実績を得た。 会津若松市内の小学校との連携により、あるテーマによる一定期間内の連続した学習プログラムを新たな取組として実施。また、ライフミュージアムネットワーク実行委員会主催事業で福島県内の適応指導教室との連携により不登校児童への連続した学習プログラムも実施。上記により博物館活用による小学生への学習機会提供の可能性を広げた。 **計画通り実施**
	５利用者との協働	⑩ボランティアとの協働	ボランティアとの協働を検討し、具体的な活動内容を考案、一部を試行し、結果を検証する。
			ボランティアのあり方について協議し、現行の資料整理ボランティアの性格を尊重し、その活動を支援する方向性を検討した。 新たな展開として、従来博物館友の会の古文書愛好会メンバーのみであった歴史分野担当の資料整理ボランティアを令和4年度から一般からの参加を加える方向として資料整理ボランティア参加の枠組みを広げた。 **計画通り実施**
		⑪利用者の自主的な文化活動支援	利用者の自主的な文化活動の支援のあり方について検討する。あわせて既存の活動（サークル等）の自主的な学習や運営を支援する。
			利用者の自主的な活動のあり方について班内で検討した。サークルによってはコロナ禍の影響により活動の中止が続き、退会者が出るなどの影響が出たが、新たに活動をはじめた「仏像を研究し旅する会」や「考古学倶楽部」を含め、福島県立博物館友の会に所属する既存のサークル活動の自主的な学習、運営を支援した。 **計画通り実施**
		⑫協働による新たな事業運営の枠組みの構築	協働による新たな事業運営の枠組み案をさらに検討し、一部を試行する。
			協働による新たな事業運営の枠組みについて班内で検討した。当館が事務局を務めるライフミュージアムネットワーク実行委員会主催事業でリサーチを行い、事業趣旨の賛同者に児童・生徒向けワークショップへの参加を呼びかけた。 **計画通り実施**

	６博物館情報の公開と発信	⑬情報の効果的な周知	広報戦略の立案に基づき、マスコミ等への情報提供ルートの検討を行い、マスコミへの情報提供の充実を図る。
			広報戦略会議を行い、企画展の内容に応じた広報内容の検討を行った。従来のマスコミ向けの企画展説明会に加え、研究成果の公表のための記者会見を初めて実施した（オンライン1回含む計2回）。また、年度当初にマスコミ各社を訪問して新年度事業案の説明を行い、マスコミとの関係性の強化と情報提供ルートの充実を図った。 **計画通り実施**
		⑭親しみやすさと認知度の向上	「三の丸からプロジェクト」を含め広報デザインの統一感の創出を図る。博物館の「人」「モノ」「コト」「場」の紹介により親しみやすさの印象を向上させる。
			年間パスポートやコロナによる各種事業変更の表示等を共通のデザインで作成・発信した。統一感あるデザインの導入についてのメリット・デメリットの検討を行った。 広報紙「なじょな」やラジオ番組「けんぱく徒然語り」等を活用し、展示や講座の魅力だけでなく学芸員個人や収蔵庫に眠る資料などもクローズアップし、親しみやすく興味をひく情報発信を心がけた。また博物館の多様な楽しみ方をまとめ令和3年度に発行した「なじょな2021特別号」を配布・活用し、館周辺を含めた「場」としての博物館の魅力を伝えた。「なじょな2022特別号」も「三の丸からプロジェクト」特集号として博物館と同プロジェクトを統一感をもって広報するツールとした。 **計画通り実施**
	７地域連携とネットワークの拠点	⑮県内の各機関・団体との連携による新たな文化活動の創造	「三の丸からプロジェクト」の共同申請者をはじめとする該当施設・団体等との連携により、文化観光拠点としての役割を果たすべく同プロジェクトを実施する。
			三の丸からプロジェクトの「雪国ものづくりマルシェ」「若松城下まちなか連携事業」の開催や「雪国ものづくりレストラン」「周遊促進発信事業」を、共同申請者との情報・資料提供、広報協力をはじめとする連携により実施。また「体験型プログラム」は、各団体等との連携により新たな文化資源の活用の可能性を提示できた。 「若松城下まちなか連携事業」は、当館の企画展と連動する周遊促進事業として会津若松市内の歴史的建造物（登録有形文化財：建造物）の新たな利活用を実践し、各会場や運営団体と新たな文化活動の創造の可能性を共有する機会ともなった。 三の丸からプロジェクト以外にも、夏の企画展で会津若松市が事務局を務めるナイトタイムエコノミー推進協議会と連携して事業を行うなど、各観光団体との連携により、文化観光拠点としての整備と活動の実績をあげることができた。 **計画通り実施**

Ⅲ明日に向かう博物館	８震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承	⑯震災遺産の展示公開と利活用	災害分野の教育普及を充実させる。さらに防災教育の視点を含んだポイント展、特集展を実施し、それらの成果を活かした新たな震災遺産の常設展示プランを検討する。
			ゲストティーチャー13回1733人、講師派遣9回154人と学校や公民館での教育普及を充実させた。ポイント展・特集展も教育普及的な内容を加味して実施した。また、会津若松市危機管理課や会津自然の家など、他機関と連携した教育普及活動も実施することができた。また常設展示プラン案を作成し、議論を始めた。 **計画通り実施**
	９新たな博物館の役割・機能の創出	⑰地域社会の現状への貢献	博物館的手法で、地域の文化施設との連携、将来世代を含む多世代との協働を通して、様々なタイプの人々に対応し、地域の社会的課題に向き合うプログラムを考案、試行する。
			福島県内の４拠点で、地域の方、地域の文化施設、アーティストや研究者と共に、その地域・拠点が抱える社会的課題に対して向き合うアートワークショップを実施した。高校生を含む多世代の参加、長期的視点でのリサーチ、自然との共生、多様な人々の居場所づくりなどを通して、持続可能な地域づくり、多様な声に耳を傾ける空間（ポリフォニックスペース）の創出を目指すプログラムとなった。 **計画通り実施**
	10管理運営	⑱施設の安全で快適な環境整備	前年度発生した福島県沖地震をうけ、災害発生時のリスクアセスメントを改めて行い、結果に基づいた行動マニュアル・チェック項目を検討する。
			福島県沖地震をふまえ、改めて館内（特にバックヤード）の地震発生時のリスクについて確認し、避難経路の安全を確保するための不用物品や存置品の処分や整理を積極的に行うとともに、非常時の対応について「福島県地域防災計画」を基に館内で検討した。 **計画通り実施**

２．数値目標（指標）

使命・活動方針に沿って、福島県立博物館の社会的な貢献度をはかる指標として数値化できる目標を設定し、年度ごとに実績を公表します。

（2022年3月末現在）

区　分	指　標	年間目標	2021実績	備　考
館内事業利用者数（展示・行事）		90,000	84,241	(内訳)展示: 80,507人、行事:3,734 人（オンライン参加含む）

区　分	指　標	年間目標	2021実績	備　考
資料情報の公開	件数	5,000	2,819	(内訳）考古：136件、民俗：137件、歴史：1,304件、美術：32件、自然：1,210件
研究成果の公表	件数	30	34	(内訳)印刷物: 23件、学会発表等:11 件
行事の実施	回数	100	111	(参考)中止：26
ホームページ	アクセス件数	430,000	368,789	ページビュー数
館外事業利用者数（学校・公民館事業等）		1,800	2,605	(内訳)ゲストティーチャー事業:1983、講師派遣事業：596、共催・後援事業：26
館外事業利用者数（実行委員会・協議会事業等）		500	231	（内訳）LMN：231、磐梯山ジオパーク：0、ふくしまサイエンスプラットフオーム：0

（参考）第3期中期目標から実績を集計し、今後目標値の設定を予定します。

区　分	指　標	2020実績	2021実績	備　考
年間パスポート	販売数	1,737	968	
	利用者数	2,442	4,007	（内訳）常設展:1,675、企画展:2,332
Facebook	投稿件数	262	308	投稿数＋シェア数
	フォロワー数	1,248	1,338	
	エンゲージメント数	28,940	22,156	以下の4項目を合計した数値 ・投稿クリック数（リンクのクリックや画像の表示などページを閲覧した数） ・リアクション数（いいね！等） ・コメント数 ・シェア数
twitter	投稿件数	280	410	ツィート数＋リツイート数
	フォロワー数	1,507	2,115	
	ツイートインプレッション数	1,131,054	1,175,482	ツィートが閲覧された数
YouTube ※2020年度新規	動画数	50	35	
	チャンネル登録者数	182	291	
	視聴回数	10,006	10,526	
館内事業利用者数（特別プログラム利用者）		3,009	3,556	(内訳)未就学児：、学校・公民館：3038、その他展示個別解説等：256、職場体験：8、博物館実習：10、利用指導者研修会：10、大学の課外授業及びゼミ対応:234
館外事業利用者数（館外で行った当館主催事業利用者）※2020年度新規		19	69	三の丸からプロジェクトまちなか連携事業

2022年3月末までの進捗状況について

第３期中期目標の3年目を終えた。
前年度から引き続き、コロナ禍の影響を様々な形で受ける中で各種の事業等を実施せざるを得ない状況であり、また令和2年度後半から始まった福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」と既存の目標とを一部接合させながら、同時並行で取り組んでゆくような一年となった。
「１．重点目標」について、18項目すべて年度当初に設定した計画通りに進めることができた。
「２．数値目標」については、コロナ禍の影響が続く状況の中で、前年度の原因・問題点をふまえた改善等により、達成もしくはほぼ達成に近づいた項目も増えたが、それでも目標に到達できない項目があった(原因の分析・問題点は《補足》参照）。

《補足》2021年度の自己評価の詳細

計画通りできなかった項目		原因の分析・問題点など
１重点目標	（なし）	
２数値目標	館内事業利用者数（展示・行事）	目標には到達しなかったが、目標値（9万人）の94%まで迫ることができた。前年度（60,416人）比でも140%となり、コロナ禍が続く中でも数字を伸ばすことができた。 とくに展示の利用者が増えたことが要因で、常設展は前年度比124%、企画展は194%となった（春の企画展200%、夏の企画展257%、秋の企画展122%）。 行事についても前年度比では175%だが、コロナ禍以前と比べると大幅に減っている点は変わらない。別の指標である「行事の実施（回数）」は戻しつつあるものの、おもに講堂などを会場とする館内での行事は感染拡大防止対策として参加人数を制限しているため利用者数はなかなか伸びなかった。コロナ禍が続く中では、オンライン参加を可能にしたり、マルシェのような屋外で実施する行事を加えながら利用者の幅を広げることも必要である。 なお、第3期中期目標の中間見直しによって、利用者数の集計方法が、今年度から一部変更になった。
	資料情報の公開（件数）	資料情報の公開は、３年連続で目標数を達成できていない。件数は前年度の3,245件を下回った（前年比13%減）。 資料情報の公開は、資料受入れ後の①仕分け・学術分類、②写真撮影、③データベースへの登録、を経た④段階目の資料整理作業に当たる。このうち①・②の作業は、③への準備段階であり、本目標④の成果は③の母数に左右される。 量的に豊富な大型コレクションは上記の整理作業のルーティーンに乗せやすく、登録・公開件数に寄与する傾向が強い。ところが近年の傾向として大型コレクションの整理案件の減少と公開に制約のある寄託資料の増加、及び新たに博物館資料に位置付けた「震災遺産類」のデータベース登録フォーマットの未整備があり、これらが公開件数に結び付かないことが要因と考えられる。 なお本年度の③登録件数は1,700件弱で、④公開件数がこれを上回っているのは数年次の整理作業を経て公開に至るプロセスと、少しでも公開件数を達成しようとする意図を示している。
	ホームページ（アクセス件数）	アクセス件数は、コロナ禍の影響が大きかった前年度（304,261件）より回復し、4月～12月の全ての月で前年度を上回った。一方で感染者数が爆発的に増えた2022年1月～3月は前年度を下回り、大きな影響を受けた。また、SNS（博物館公式・非公式含む）や博物館以外の観光系情報サイトなどの充実による情報入手先の多様化は引き続き背景にあり、基本情報入手先としてのホームページと話題性を生み出すSNSといった役割分担の結果が数値に現れているとも考えられる。
	館外事業利用者数（実行委員会・協議会事業等）	利用者数の合計が少なかった原因は「館内事業利用者数」の行事関係の場合とほぼ同じで、コロナ禍の影響で行事が中止になったり、参加者人数を制限しながら実施せざるを得なかったためと考えられる。

２．数値目標（指標） 中間見直し後

使命・活動方針に沿って、福島県立博物館の社会的な貢献度をはかる指標として数値化できる目標を設定し、年度ごとに実績を公表します。

（2021年3月末現在）

区　分		2019	2020	**2021**	2022	2023	備考
①館内事業利用者数（展示・行事）	目標	90,000	90,000	**90,000**	**100,000**	**110,000**	
	実績	120,376	60,416	**84,241**			
②館内事業利用者数（特別プログラム）	目標	―	―	**―**	**3,500**	**4,000**	
	実績	4,930	3,009	**3,556**			
③館外事業利用者数（学校・公民館事業等） ④館外事業利用者数（館外で行った当館主催事業）	目標（③④合計）	1,800	1,800	**1,800**	**2,000**	**2,000**	
	③実績	1,823	2,188	**2,605**			
	④実績	―	19	**69**			
	実績（③④合計）	―	2,207	**2,674**			
実績合計（①②③④合計）		127,129	65,632	**90,471**			

区　分	年間目標	2019実績	2020実績	**2021実績**	2022実績	2023実績	備考
資料情報の公開（件数）	5,000	2,054	3,245	**2,819**			
研究成果の公表（件数）	30	32	15	**34**			
行事の実施（回数）	100	130	77	**111**			
ホームページ（アクセス件数）	430,000	391,990	304,261	**368,789**			
館外事業利用者数（実行委員会・協議会事業等）	500	547	59	**231**			

（参考）第3期中期目標から実績を集計し、今後目標値の設定を予定します。

区　分	指　標	2019実績	2020実績	**2021実績**	2022実績	2023実績	備考
年間パスポート	販売数	988	1,737	**968**			
	利用者数	4,630	2,442	**4,007**			
Facebook	投稿件数	227	262	**308**			
	フォロワー数	1,135	1,248	**1,338**			
	エンゲージメント数	28,256	28,940	**22,156**			
twitter	投稿件数	309	280	**410**			
	フォロワー数	1,167	1,507	**2,115**			
	ツイートインプレッション数	3,103,652	1,131,054	**1,175,482**			
YouTube ※2020年度新規	動画数	―	50	**35**			
	チャンネル登録者数	―	182	**291**			
	視聴回数	―	10,006	**10,526**			

《補足》第３期中期目標　中間見直しの経緯と結果

◆経緯
　５ヶ年計画の中間である令和３年度に中間見直しを実施した。

◆見直しによる変更点
《重点目標》
〇目標内容について、とくに変更はない。
〇文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」の開始に伴って、毎年設定する年度ごとの計画については、この事業の内容を適宜盛り込んだものにしてもよい。

《数値目標》
〇「福島県総合計画」など上位計画において入館者数（利用者数）の目標が、あらためて示されたことに対応して、利用者数の集計内容を変更する。
　利用者数の内容

（従前）	→（変更後）
①館内の展示・行事の利用者数	①館内の展示・行事の利用者数
	②館内の特別プログラム利用者数
	③館外で行った学校・公民館等事業利用者数
	④館外で行った当館主催事業利用者数

〇これまで年間の「館内利用者数９万人」を固定した目標値にしてきたが、今後は上位計画に提示された各年度の目標値に合わせる。文化庁認定の「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」の目標値とも整合させる。
　第３期期間中の目標値は以下の通り。
（令和３年度）　　90,000 人（従前のまま）
（令和４年度）　　①100,000 人　②3,500 人　③④2,000 人　合計 105,500 人
（令和５年度）　　①110,500 人　②4,000 人　③④2,000 人　合計 116,500 人
　　※文化観光事業の目標値は、上記以外にレストラン利用者を含んだもの
〇その他の項目の年間目標値について
　新型コロナの影響等により、達成できないものもあるが、原因等を十分に分析することにして、目標値の変更は行わない。
〇今後の設定のための参考としていた項目について
・以下の理由により、現時点では新たな目標項目として設定はしない。
・年間パスポートは、実行委員会形式の企画展の販売促進が難しいため。
・ＳＮＳ関係の項目は、指標としてはあげられるが、目標値を設定するためには、さらに詳細な分析が必要。
〇今後のための意見
・文化観光推進事業の効果をはかれるような目標・検証を、今後組み込むべきではないか。